

多収で糖度が高いミニトマト F1 新品種

「KspM」

～生物資源部

促成と半促成栽培に適した多収で糖度が高いミニトマトの F1 品種を育成しました。花房が長く伸びすぎず、収穫しやすいので、直売の品目数を増やすのには最適です。

「KspM」は、超多花の選抜・固定系統「Ksp」に、「ミニキャロル」の選抜・固定後代を交配することにより、F1 品種として育成しました。

9月まき、10月末に定植の促成栽培での試験では、2月上旬から収穫が始まりました。1粒の平均果重は 14.5g、総収量は 1 株 2.7kg、糖度 8.1 と、いずれも優れた性質を示しました。さらに、上段になると花房がダブル、トリプルになり、花数が増えたことにより収量も大きく増えます。樹勢が強いので、やや遅めに定植し、水を控え、摘葉しながら栽培するのがポイントです。TMV 抵抗性は Tm-2^a なので、一般の抵抗性台木も利用できます。今後、生産地と消費地が近い神奈川県らしい特産品の一つとして、「KspM」も直売向け品種として利用していただけると幸いです。なお、3～4月まきの露地栽培や雨よけ栽培では、酸味が強くなってしまっただけでなく、果実が縦長になり先端が突き出て、促成栽培の2倍の果実になるなど形質が大きく変わってしまうなど向きませんのでご注意ください。

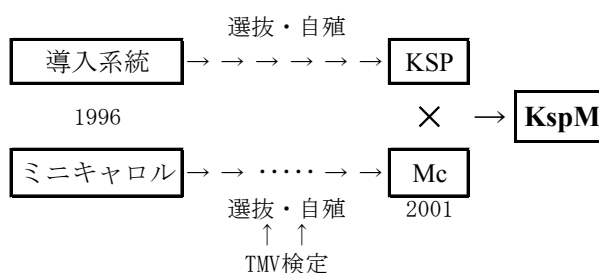


図1. 「KspM」の育成経過



5月中旬の着果状況 (Uターン整枝の裏側)

「KspM」の特性 (平成14年度促成作)

作型	播種日	収穫開始日	収量 (kg/株)	裂果率 (%)	1果重 (g)	果形*			糖度*
						縦(cm)	横(cm)	縦横比	
雨よけ	4月17日	7月16日	2.30	13.0	35.0	4.1	3.4	121	6.9
促成	9月13日	1月31日	2.70	1.8	14.5	3.4	3.0	113	8.1

*2003年3月19日調査